

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

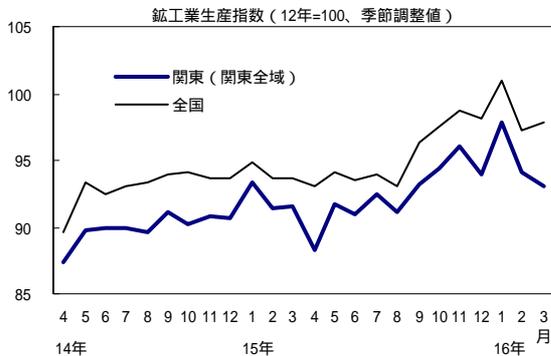
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 16 年 2 月）	今回（平成 16 年 5 月）	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、改善の動きがみられる	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。（関東全域）

一般機械は、おう盛な設備投資欲を背景に半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置が好調なことから、引き続き増加している。化学は、内需が堅調に推移したものの、中国を中心としたアジア向け輸出は、円高などから抑制の動きもあり、全体としてはおおむね横ばいとなった。輸送機械は、排ガス規制によるトラックの買い換え需要が一段落した影響から減少に転じた。情報通信機械は、携帯電話、DVDの反動減により、2月、3月と連続で減少したため、前期比でマイナスとなった。電気機械は、半導体・IC測定器が引き続き好調に推移したものの、リチウムイオン蓄電池などが低調であったことから、3月は増加したが四半期では減少となった。



(備考) 平成 16 年 3 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

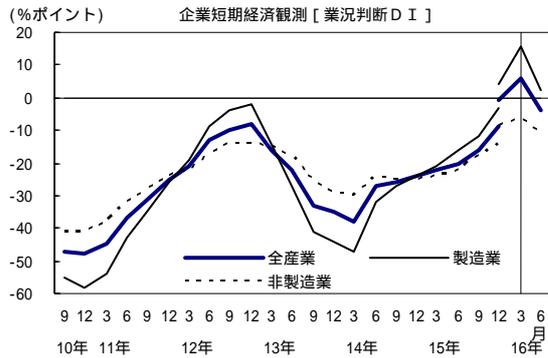
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	13.8	7.3	5.0	4.3	3.4
化学	13.7	0.1	0.2	2.0	1.1
輸送機械	11.3	2.5	2.5	4.6	3.3
情報通信機械	8.6	0.9	2.0	2.7	32.2
電気機械	7.9	8.8	1.6	0.4	4.3
鉱工業	100.0	2.8	0.2	0.1	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

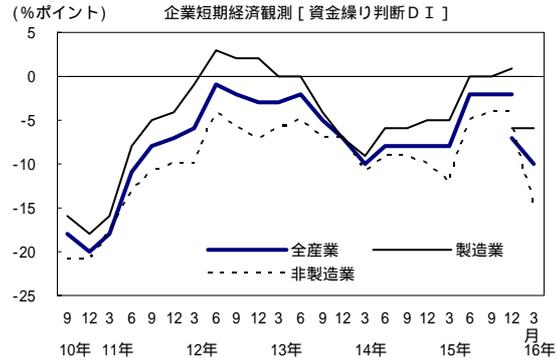
2. 1~3月期は速報値。

3. 1~3月期の化学の生産、出荷については、1月、2月
確報値の平均より算出。在庫については、2月確報値。

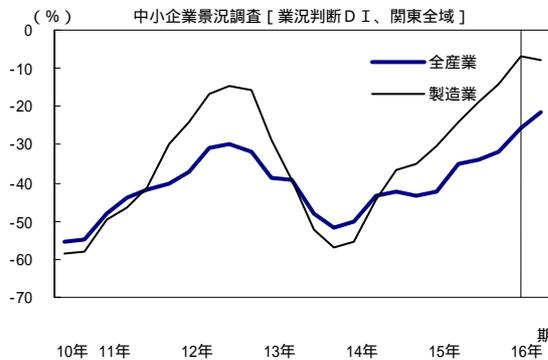
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
 旧基準は関東全域、新基準(15年12月以降)は群馬県。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
 なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
 旧基準は関東全域、新基準(15年12月以降)は群馬県。



(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「しばらく注文が途絶えていた取引先数社から、仕事が間に合わないので手伝ってほしいという依頼が入っている。また、協力工場各社も仕事を相当抱えている様子である(一般機械器具製造業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

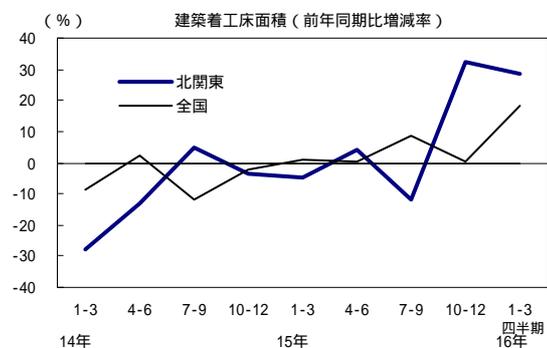
(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	7.4(0.6)	11.1
製造業	15.9(3.3)	14.4
非製造業	6.1(9.3)	4.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。

15年度実績見込み及び16年度計画ともに群馬県。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

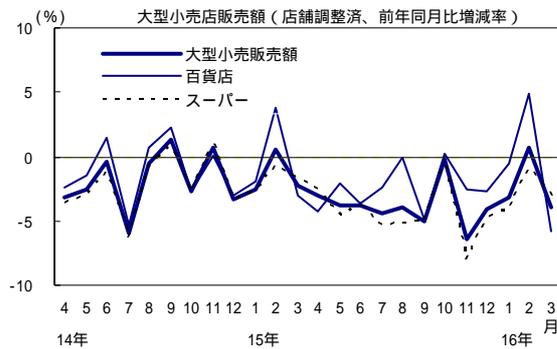
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売り、クリアランスセールによる効果等から、減少幅は縮小した。2月は、うるう年効果に加え、気温が高めに推移したことや催事効果により、春物衣料、飲食料品に動きがみられ、全体でも4か月ぶりに前年を上回った。3月は後半気温が低く推移するなど天候不順の影響から、春物衣料や飲食料品等が振るわなかったため、再び前年割れとなった。

スーパーは、主力の飲食料品に持ち直しの動きがみられたものの、期間を通じて衣料品等が苦戦し、全体では16か月連続で前年を下回った。

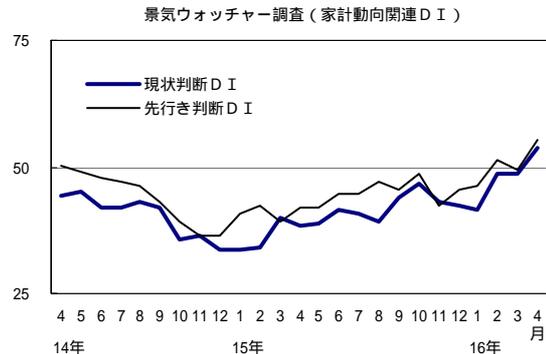
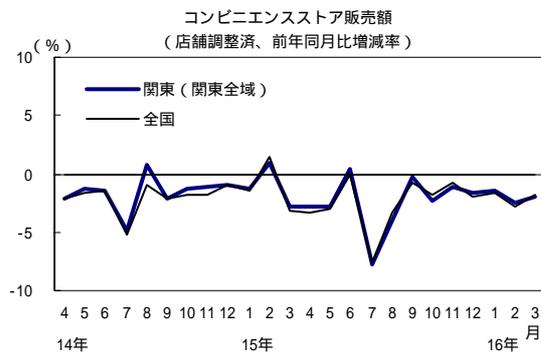
景気ウォッチャー調査（4月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「新製品や景品が付くような目新しい商品があると若干動きが出てくるが、特別購買意欲をそそるような商品がない場合は変わらない（コンビニ）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	3.6	4.4	3.7	2.3
百貨店	3.4	2.5	1.8	1.0
スーパー	3.6	5.2	4.5	2.8
コンビニ	1.8	4.2	1.7	1.9
景気ウォッチャー	39.6	41.3	44.2	46.3

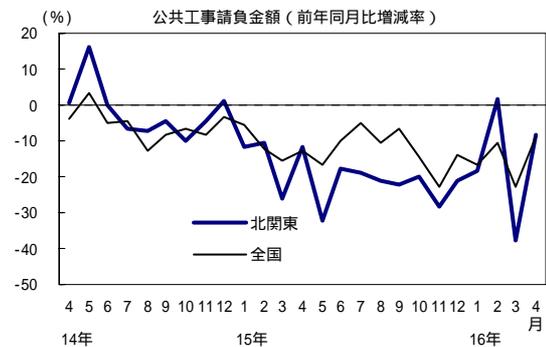
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

給与が前年を下回ったものの、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

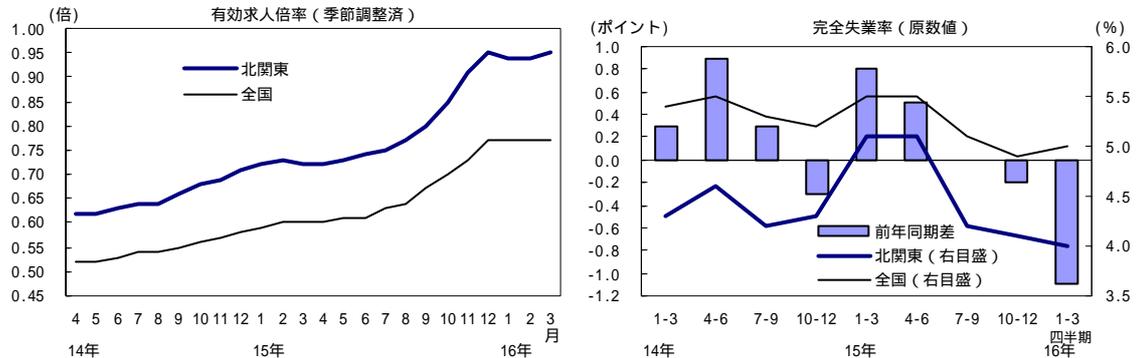


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「これまでは景気の悪い話しか出なかったが、最近は景気が良さそうな事業所、個人が増えており、求人広告も若干増加傾向にある(新聞社[求人広告])」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	254	170	172	176	47
(前年比)	2.0	30.9	27.7	23.8	45.3
負債総額	2,178	818	684	1,443	1,156
(前年比)	83.8	22.3	51.2	86.3	31.5



景気ウォッチャー調査 (4月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・このところ工作機械の大手メーカーである親会社から、従来にはないような金額の高い機械の引き合いが出てきている。これは工作機械や精密機械メーカーが設備投資をし始めたということなので、明るい兆しである(金属製品製造業)

<先行き>

- ・オリンピックが間近に迫ると、高額商品が動くようになる。気候が良くなると観光などに出かける機会が多くなり、身の回りの品も購入するようになるので、やや良くなる(商店街)

